

中日省エネ環境総合フォーラムでの講演

中国電力企業联合会常務副理事長 魏昭峰

2014年12月28日

尊敬する指導者及び専門家の皆様：

国家発展改革委員会が主催する今回の中日省エネ環境総合フォーラムが本日北京にて正式に開催され、私は中国電力企業联合会を代表しまして、中日両国政府及び各参加者の皆様に対し、熱烈な歓迎を申し上げます。

長年来、電力企業は科学的発展観をもって、指導とし、積極的に電力ニーズの加速度的な増加の挑戦に対し対応し、発展の歴史的チャンスをつかみ、速やかな構造調整を着実に進め、社会責任を真摯に果たし、改革の活力を十分発揮し、党や政府の事業の大局に立ちつつ、サービス経済と社会発展、電力ユーザーへのサービスに対し、更なる増強を進め、著しい成績を上げております。電力業は、国家のインフラ産業として、ニーズと国家政策の支持のもと、市場競争メカニズムの中で発展速度も目覚しく速く、発展の質も目覚しい向上をしており、ハイパワーで大容量かつ低エネルギー消費分野において大きな飛躍を実現し、全面的に安全でクリーンで節約の発展軌道を歩んでおります。

わが国の電力工業は、総量、構造、省エネ排出削減等の分野すべてにおいてかなりの発展と進歩を遂げております。主な点は以下の点のとおりです：

(一) 電力供給能力の継続的な増強

2013年、電力建設投資総額は、下降から上昇に転じました。全国電源基盤建設の新規生産能力の増加は約1億kwに上り、そのうち、水力発電は前年度に比べ増加が著しい一方、火力発電の新規生産能力は昨年度に比べ減少している。同じく2013年、引き続き水力発電及び風力発電設備規模は世界トップになって以降、全国総発電規模もアメリカを超えて世界トップになりました。恐らく2014年も引き続き安定的な成長が見込まれております。

2013年末、全国220キロボルト以上の送電線の総延長及び公用変電設備容量は安定的な増加を続けており、電線網の規模は、継続して世界トップとなっております。

(二) 電源構造の更なる最適化

“第 11 次五カ年計画”以来、電力業は電源構造の最適化を加速し、非化石エネルギーへの投資及びその比重が年々伸びております。2013 年、発電設備容量のうち、非化石エネルギーの比重は更に上昇し、火力発電の比重は引き続き下降しております。全国の水力発電、原子力発電、風力発電、太陽光発電の新規設備増加の速度は火力発電よりも速いといえます。2013 年末までに、水力発電、原子力発電、風力発電、太陽光発電等の発電設備容量は前年同期比約 200%の伸びを示しており、火力発電設備容量の全国に占める割合も更に下降している状況です。

同時に、ハイパワーで大容量、省エネ、節水、環境保護型の石炭火力発電ユニットの大規模応用が進んでおり、30 万 kw 以上の火力発電ユニットの比率は更に増加しており、火力発電自体の構造も著しく最適化が進んでおります。

(三)省エネ排出削減の新たな進展

電力業は国家の統一部門の要求に基づき、不断なる電源構造の最適化やエネルギー利用効率の持続的な向上、汚染物質の処理・処置への資金投入を拡大し、全国の省エネ排出削減に重要な貢献をしております。

2013 年、全国火力発電ユニットにおける石炭消費は世界先進レベルの高さを維持しており、全国の電線網における電力損失率や発電所における電力使用率は昨年に比べ更に低くなっています。

2013 年、全国 1,000w単位の火力発電量、排煙排出量、二酸化硫黄排出量、窒素化合物の排出量はすべて前年に比べ顕著に減少しております。2005 年を基準年として、2006～2013 年までに間に、電力業の非化石エネルギーの発展や電線における電力損失率の低下等の措置を通じて、累計 40 億トンの二酸化炭素排出削減を達成している。

新たな火力発電所大気汚染物質排出基準(GB13223-2011)が既に 2012 年 1 月 1 日に実施され、規定は 2014 年 7 月 1 日から石炭火力発電ユニットにおける煤塵排出指標は $30\text{mg}/\text{m}^3$ 、二酸化硫黄の排出指標は $100\text{mg}/\text{m}^3$ (新規ユニット)、 $200\text{mg}/\text{m}^3$ (既存ユニット)、窒素酸化物の排出指標は $100\text{mg}/\text{m}^3$ (一類地区の指標は更に厳格)、この目標を達成するため、各発電所はすべて関連の改造を進め、少なからぬ努力をしております。

今年 9 月 12 日、国家発展改革委員会、環境保護部、国家能源局が連合で《石炭火力発電省エネ排出削減レベルアップ改造行動計画(2014～2020 年)》を發出し、

更に厳格なエネルギー効率の向上と環境保護基準を提出し、石炭火力発電レベルアップ改造を速やかに進め、高効率かつクリーンで持続可能な発展を可能とする石炭火力発電産業の「レベルアップ版」を打ち立てる事を目的にしています。

今年 10 月 9 日、全国石炭火力発電省エネ排出削減のレベルアップ改造動員テレビ電話会議を開催しました。会議では、「石炭火力発電省エネ排出削減モデル発電所とモデル基地」の称号授与に関する通知が宣言されるとともに、浙江浙能嘉華発電所、河北国華三河発電所、内モンゴ国電布連発電所に対し、「国家石炭火力省エネ排出削減モデル発電所」の称号を与え、上海申能外高橋第三発電所に対し、「国家石炭火力発電省エネ排出削減モデル基地」の称号を与えました。上述の発電所は、超低排出技術、ほぼゼロエミッション技術、補助シングル配置技術において、省エネ排出削減において多くの突破口をえて、広く普及する価値があるといえます。

恐らく、これは、わが国における大気汚染悪化の前提のもとに、環境保護指標に対する要求が益々厳しくなっているといえます。しかし、すべてが両面をもっており、超低排出、ほぼゼロエミッションの技術が良好な環境という利益を達成する一方、非常に大きな改造コストと比較的大きな運用コストの増加に繋がり、補助シングル式構成技術により、建設費を節約することができるだけでなく、石炭消費を減らすことができますが、ユニットの長期的な運転は大きなチャレンジとなります。そのため、石炭火力発電ユニットの石炭消費量を削減し、汚染物質の排出を低減するために、先進的な省エネ・環境保護技術は大変重要なものであり、今回の中日省エネ環境総合フォーラムの開催の主な理由であると思います。私は、このフォーラム開催を通じて、中日両国の更なる省エネ環境保護の分野における協力が拡大することを希望いたします。

中国電力企業連合会(CEC)は、中国の電力業界の企業や機関による協同組織で、1,180 以上のメンバーを有し、中国の省エネ環境保護の推進や、石炭火力発電ユニットの運営効率の改善、有害物質の排出削減、新エネルギー産業発展等の推進において、非常に重要な役割を果たしております。CEC は、これらの分野の交流協力において、日本との協力継続を希望しており、両国電力企業が展開する省エネ、環境保護、グリーンエネルギー革命の推進に貢献をしております。

この機会を借りまして、このプロジェクトのために強力なサポートをしてくださっている両国政府及び参加する中日両国の企業、専門家の皆様に改めまして感謝申し上げます。

最後に、皆様のフォーラム期間中の業務の成功と、会議の円満な開催をお祈りしております。ご清聴ありがとうございます！